’05 のべおか
第九

のべおか第九だより（第366号）
2005年10月23日 (日)

○発行　のべおか「第九」を歌う会
○事務局（延岡総合文化センター内）
〒882-0852 延岡市東浜砂町611-2
電話 (0982)22-1855
http://www.horita.jp/dai-9.html

---- 出席カードには会員番号を。練習中のケイタイ着信音はオフに。----

本日の内容
長井先生の指導を復習。

◎ A (237～330小節) p.9～17
◎ B (411～654小節) p.20～33
◎ C (655～762小節) p.34～43
◎ D (795～920小節) p.46～58
12月10日まであと**48**日

前回の状況	会員数	出席数	出席率	自己採点
♦ ソプラノ	43 人	26 人	60.5 %	62.0 点
♥ アルト	86 人	64 人	74.4 %	65.3 点
♣ テノール	21 人	16 人	76.2 %	69.5 点
♠ バス	33 人	19 人	57.6 %	66.2 点
● 合計	183 人	125 人	68.3 %	65.4 点

@長井則文先生の指導（10月16日：合唱幻想曲）

その付近の注意…●総合・♦ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話
（ドイツ語ウムラウトの発音“ö”をカタカナで“ォ”と表記してあります。また、ほかの部分やパートの注意でも全体に関連がありますので、読み飛ばさないようにお願いします。）

★ 443 【お話し】まず、さきの水害で被害に遭われた方がいらしたら、お見舞い申し上げます。テレビ映像で大変だったこと、僕がいつも泊まっているホテルの横もギリギリだったとのこと。お見舞い申し上げます。さて愛子先生のFaxによれば、合唱幻想曲は「後半があまり速くないです」という直前の情報でしたが、あまり速くないですというのがどの程度だかわからないから（笑）。今日はとっても楽しみにして来ました。

● 444 【Gro - ßes.～】 8分音符がいっぱい並んでいるじゃないですか。それで“たまには”皆さん正しく歌ってらっしゃるようなんです。【por;】(448)とか、【See-nen,】(454)とか。“See-len”は第九にも出てくるもんだから知った言葉だからね（笑）。

○ 444 【Gro - ßes,】 “Gro-ßes,”は“Gro-”のほうが“-ßes”より僕は長く発音してるでしょ。“blüht”のほうが“dann”より長く発音。僕がそういったとき、言葉の下に横棒をひいてください。それは長めに発音するというサイン。

……もっと“Gro-”を。“大きい、雄大”という意味なんです。出るときはソリストを聞いてないで口は用意してて。
……“Gro-”は早めでしょ。手をたたいて歌ってみるよ。“Freude!”と一緒なんです。

○ 446 【drun - gen, blüht dann】 “blüht”のほうが“dann”より長く発音。

○ 448 【por; hat ein】 “por;”も長い。これは正しい。そこだけ正しい（笑）。音が2つあるんだから、自然発生的に長いよね。

○ 450 【schwun - gen. halt ihm】 “schwun”は跳ねてください。“シュヴンゲン”。

○ 451 【stets ein Gei - ster -】 “stets”ここに横棒。“stets”が“ein”より長い。

○ 453 【hin, ihr schö - nen】 なんとかならないかな!? “schö-nen”。“シェー…”じゃなくて“ショー”（ウムラウト）。“nen”はウムラウトじゃない。あのね、このまま（口を尖らせたまま）“nen”までいかないでね。窄った開いた。

● 453 【hin, ihr schö - nen〜】 ここの“hin”それから次の“See - len,”(454)にアクセントをつけて。これね、みなさんがお歌いになる場所でこの2カ所だけオーケストラにアクセントが着くんですよ。見てみると、下の楽譜にsfってありますよね。だからみなさんも歌うときにこの部分にアクセントをつけてほしい。ほかはありません。この2カ所だけです。

○ 454 【See - len, froh die】 “See-len,”は第九でも歌っているから長く発音してますね。“froh”は“die”より長く発音。

○ 455 【Ga - ben schö - ner】 “Ga-”は“ben”より長く。“schö-”が長く“nen”が短くだけど、第九にも出てくるのにいまだに“シェー”っておっしゃってるな。“ショーネル”（ウムラウト）。

○ 456 【Kunst. Wenn sich】 “Kunst.”はなんで減衰するの!? ハッキリ。最後まで。今のだと最後はお客に聞こえないよ。

◇ 457 【Lieb’ und Kraft ver -】 “Lieb’”は“und”より長く。ソプラノさん、もっとねばって。“i”と“e”の2つある母音をもうちょっとねばって。

○ 457 【Lieb’ und Kraft ver -】 “Lieb’”は“und”より長く。“Kraft”は短く。“闘い”という意味があります。“愛”と“闘い”。“Lieb’”というのは言葉が柔らかい意味でしょ。“Lieb’”は長く“Kraft”は速く発音してスピードに差をつけてね。

○ 458 【mäh - len, lohnt dem】 “mäh-”は“len,”より長く。“lohnt”は“dem”より長く。

○ 459 【Men - schen Göt - ter -】 “Göt-ter-Gunst”は“ゲェッテル…”じゃなくて“ゲォッテル…”（ウムラウト）。第九にも出てくるんだから覚えよう。

○ 460 【Gunst.】 おそらくね、僕は本番棒は“Gunst.”を長めにされないと思います。1拍4分音符でしょ。その拍内で“…st.”まで処理して。先までいかない。切れ目切れ目をしっかり、思いを残さないで歌ってほしい。

……どういうタイミングで“…st.”というんだったっけ、と自分で練習するときは、次は休符でしょ。それを“トン”って言ってやるんです。“…st.トン”。やがて“トン”をとってそのタイミングで“…st.”を発音する。長くならない。

● 462 【hin,〜】 細かい事を言いますね。“hin”は何音符? 4分音符。次の“hin”(464)は? 8分音符。みなさん同じ長さなんだ。区別してる?? してないね! O.K.?
（“hin”(462,468)=4分音符・“hin”(464,470)=8分音符）

● 464 【hin, ihr〜】 みなさんねぇ“hin, ihr schö-nen…”って「やがて下の段の2小節目にpが来るぞ」って予感して歌ってるの（笑）。お客にそんな予感をさせたらダメ。堂々とfで歌いっぱなしだという感じで歌ってなきゃ。突然“See-len,”(466)ってpでやるから効果があるんです。

○ 466 【See - len,】 なんで“See-len,”がそんなに大きいの?? オーケストラもそこからpになるんです。即ピアノ。“-nen”(465)までしっかり歌って、“See-len,”。モグラが首をヒュッと引っ込めたように。

○ 474 【Kunst.】 その“Kunst.”は短くしないと、テノールソロが入ります。テノールさんなんかは、自分がテノールソロを続けて歌うつもりで“Kunst.”を切るといいの。

● 482 【Nehmt die〜】 p って書いてあって、即 cresc. って書いてあります。イコールみたい。スグ膨れ始めて。ソプラノはメロディーラインだから楽しくcresc.できるけど、他ラインはつまんない音の進行だから、ソプラノに協力してあげて p からすぐに cresc. してあげて。

○ 486 【Kunst, froh die】 息は吸っていいよ。だけど息も拍数の中に入れてないんだ。“Kunst,”は4分音符だから1拍伸ばしたい。ブレスもしたい。…どうする? そしたら、1.5拍ぐらい要るじゃない。オーケストラは待ってくれないよ。ピアニストはアルペジオで大変なところなんだから。そんなみなさんのブレスは待ってくれない。ということは“Kunst,”の音の長さの中でブレスまでしてしまわなければならない。そのタイミングで。
……速けりゃいいってもんじゃない（笑）。そして“froh”。“Freude”と一緒だよね。ということは拍の前から来なければ。“-eu-”のところが拍。手の鳴っているところね。

○ 489 【schö - ner】 “schö-ner”を“ショーネル”と言いましょう。断然、この唇の両脇が緩んでる。ほとんどの人が“ェ”の口してるんだ。ほとんどの人が“ォ”の人の口をして。“ö”は口が縦。身につけて。

● 490 【Kunst, froh die〜】 ここがもっともっとアップテンポで歌ってあげないと、ピアニストが困っちゃうんだ。本番のピアニストは自分の速いテンポで練習してくると思うんだ。コーラスのテンポに合わせるわけにはいかない。ピアノのおけいこに取り組まれた方、一旦速いテンポで覚えた曲を先生が「ゆっくり弾いてごらん」と言われるとすごい困っちゃうのね。1回身に付いた曲をもう1回分解して「左手だけゆっくり…」と言われちゃうと困っちゃうのね。そういう次元ではないけども（笑）。
……4カ所だけ。“Nehmt denn hin, ihr schö-nen See-len,”(496〜498)。“froh die Ga-ben schö-ner Kunst”(500〜502)、ここはやさしい。“Wenn sich Lieb' und Kraft ver-mäh-len,”(556-558)。“lohnt dem Menschen Götter-Gunst.”(560〜562)。ここが速く歌えるように消化できたらあとはやさしいです。ここだけ4分音符が並んでるから、口さばきを消化したらいくらでも速く歌えます。

○ 490 【Kunst, froh die】 “Kunst,”をまず短くする。次からテンポが上がるわけだから、極力短くする。そのかわり“froh”の“f…”が発音できるようにね。“フロォーディ”。“…ディ”は短くていいから。

○ 492 【Ga - ben】 ソプラノさんだけ3つ音符があるでしょ。ほかは2つしか音符がない。それで縦が“-ben”が合うように。

○ 496 【Nehmt denn】 ほとんど“ニムデン”。“ニムト デン”って言わなくていいんです。
……“ニムデン”ですよ。（“…ディン”じゃない。）2つ目の発音が明瞭に聞こえない。

○ 497 【hin, ihr schö - nen】 “hin, ihr”は“ヒンニャ”。“ヒン”と言ってしまって“イァ”というのは喉が難しいんですよね。
……ほらほら、また“シぇーネン”って言ってる!?

○ 500 【froh die】 この前は空白があるから“froh”は前から発音できるよね。

○ 501 【Ga - ben schö - ner】 “schö-ner”、“ショーネル”だ。あと何回言ったらいいんだろう?! 帰るまでにやってくれるかな? 第九もあるしな…。

○ 502 【Kunst.】 “Kunst.”のタイミングね（長過ぎない）。自分でわからない人は“クーンスト トン”。“…トン”が次の小節。
……なんで引こうとしてるの? 最後まで“Kunst.”はっきり。

○ 504 【Lieb'】 “Lieb'”長過ぎない。
……“リーィプ”。

● 506 【Kraft,〜】 “Kraft,”もっと激しく。“闘い”。

● 514 【-〜】 伸ばしているところでffになります。ここでハーモニーが変わるのです。ここで変わったというのを印象深くやりたいんですよ。CDを聞くと、あるものは“-a-”を言い直してるんです。今、そのように歌ってみて。現田先生が「いやらしいからやめよう」とおっしゃったらやめて。息吸うんじゃないよ。息吸ったらダメ。インパクトを強くね。

……特に男声、やりすぎ（笑）!? テノールさんは気持ちいいもんだからさ、暴走族みたい（笑）。もっと芸術的にね。

○ 514 【-】 テノールとアルトだけ歌って…この半音差をもっとはっきりピッと上げてね。“ニヤァ〜”って上げず（笑）はっきり上げて!!豁然とした上がり方をしてください。

○ 521 【Göt - ter -】 第九のおしまいの“Göt-ter-fun-ken!”といっしょね。“神々”というのね。もっと印象深く。

○ 527 【lohnt ihm】 男声、弱いんだけどもどうしてだろう? 音とりはしっかりしてる?? そこはもっと印象深く出て来ないと。

○ 530 【Gunst.】 “Gunst.”は次の小節のテノールのソロにかからないでね。“Kunst.”“Lieb'”みんな同じこと。今はだいぶ小節の外にいっちゃった人がいるよ?! “…st.”がソリストと絶対混ざらないようにね。
……なんかココ、問題残すね?! 語尾をチャンと揃えようね。
……男声、“グンスト”なんてそりゃおかしいよ!? “グーゥンスト”。2拍の裏ね。95%の人ができていても、5%の人がその切り方をして“…st.”と聞こえてしまうと、大傷になってしまう。

○ 554 【Kunst.】 できるだけ短くね。即、語尾にいく。“schöner Kust.”、“美しい芸術”。
……“クーンスト”じゃなくて“クンスト”。これ何拍子で歌ってるの? 2拍子で歌っているんだったら、半拍ね。4分音符をって思って長めに歌わないでね。

○ 557 【Lieb' und Kraft ver -】 “Kraft”、速く発音して。“Lieb'”と“Kraft”はさっき(457)も言ったね。揃えよう!! あのねぇアルトの中に“くらふと”って言う人がいるんだ。“ク!…”“K”のあとに“u”が入って“くらふと”になっている。

○ 561 【Menschen Götter -】 “Götter-”の“ö”は口をすぼめて。でも“ter-”までそんなならないで。“ter-”にも“¨”がついているみたい。

○ 592 【Göt -】 “Göt-ter”の音が長いじゃないですか。“Göt-ter”を2回繰り返すわけですね。それにしては皆さん、ページをめくるエネルギーに関わっちゃってるから。“神々の…神々の…”と2回繰り返すわけですから、ページめくったココはハッキリちょうだいね。

○ 596 【Gunst.】 最後の一音だからていねいに（小節を通り越して）終わろうなんと思わないで。あとはピアノソロが受け継いでくれるんですから。

……それから“Lieb’”(457,504,557,567)というところ、最後の“リープ”の“…プ”が全然聞こえていませんからそれぞれの部分で注意してください。

★ 【お話し】先ほどの4個所（“Nehmt denn hin, ihr schö-nen See-len,”(496〜498)。“froh die Ga-ben schö-ner Kunst”(500〜502)。“Wenn sich Lieb' und Kraft ver-mäh-len,”(556-558)。“lohnt dem Menschen Götter-Gunst.”(560〜562)。）を速く歌うことができれば、うんとアップができるから。ご夫人方はきゅうりを刻みながらでもいいから（笑）。
……大合唱のメリットは、自分ができなくても他の人ができる。そうすると聞いている人はできたように聞こえるんです。第九もだから歌えるんですね。でもね、今できないところは“みんなができない”の（笑）。だからこのうちの8割方が指摘を覚えておいてくださり、“Gro-ßes…”とやってくださるとねぇ…。

@長井則文先生の指導（10月16日：第九）

その付近の注意…●総合・♦ソプラノ・♥アルト・♣テノール・♠バス
その部分の注意…○総合・◇ソプラノ・♡アルト・♧テノール・♤バス
★…お話
（ドイツ語ウムラウトの発音“ö”をカタカナで“ォ”と表記してあります。また、ほかの部分やパートの注意でも全体に関連がありますので、読み飛ばさないようにお願いします。）

★ 【お話し】昨年、このお話をしたんでしたっけ…私、昨年ベートーベンが「第九」を作曲した部屋に行ったんです。バーデンというところがあるんです。バーデンというのは温泉という意味なんです。ウィーンから電車で40分ぐらいかな。ベートーベンはそこでますます耳が悪くなったんです。耳が聞こえなくなった治療に行ったんですけどね、温泉の水銀が影響してますます悪くなっちゃったんです。それは後で解明されたことなんですけどね、とんでもない所へ行っちゃったわけなんです。その保養先で、“Freude, shöner”をこんなに小っこい部屋で書いたの!? という部屋で…そこにベートーベンが使っていたピアノも置いてあって、弾いたら怒られるのでなぜてきました（笑）。…ハイ、それでは始めましょう。

○ 238 【Freu-de!】 長年、歌ってらっしゃる方は暗譜しておられると思います。……僕がソロの部分、歌いますね。…僕、随分前から言うでしょ。……あのねぇ、巻き舌をもっとしてくれない? “eu”の音が飛んでほしいんです。それが場内に。……はい。コメントなし!、先に進みます（苦笑）。

★ 238 【お話し】これは例えると、ピカソが恋人の絵を書くのに目ん玉が顔の外にはみ出ている…これは理解してもらえずに分かれる原因になったんだけど…顔の中に収まりきれないぐらいスペインの女性の目が“カーッ”と大きかったのよ。ディフォルメってやつね。舞台芸術もそうだと思うの。ここで芝居を「（ボソボソ）お母さん、俺さぁ…」と言っても聞こえないんです。自分の家で「（ディフォルメして）お母ーさん! 僕はね!!」と親子の会話する人はいないでしょ（笑）。でも舞台ではディフォルメして言わないと、後ろには聞こえないですよね。そんな歌を男性には歌ってほしいです。

○ 257 【Dei-ne Zau-ber】 “Zau-ber”という言葉がもうちょっと欲しいな。ちゃんと意味通りにうたってらっしゃるんでしょうけど、コツは“Dei-ne”の“-ne”を短く歌うこと。“ダイネェー…”ってやっちゃうと“Zau-”の時間がないから。

♧ 263 【wo dein sanf-ter】 なんでリズム、急に壊すの? “dein sanf-ter”でテノールさん、急がない。

○ 264 【Flü-gel weilt.】 “weilt.”は拍の中でね。（拍からはみ出ない）“ヴァーイルト トン”

○ 284 【Ja,】 “Ja,”は“ヤーァ、皆さん、こんにちはぁ…”の“ヤァ”じゃない。それは声の上澄みなんです。明るくて軽い。テノールさんだったらそういう音色かもしれない。もっとおへその力を借りて。……凄まないでね。みなさんのマネをすると、途端にこもっちゃった声だ。

○ 285 【wer auch nur】 “wer”がもうちょっと長いといいな。

◇ 290 【konnt, der steh-le】 dim.と書いてあるところからディミネンドしてね。声が残らないように。“konnt, der”そこまで大きくてもいいんだけど。

○ 292 【die-sem Bund.】 “Bund.”の“…nd”が長過ぎる。“ブーント トン”。“トン”というのは次の小節の休符ね。

● 313 【Küs-se gap sie〜】 アルトとバスは音は実がきちんと詰まっているように歌ってね。……テノールはそこ嫌いでしょ? 好き??（笑）。本当はソプラノとの3度ちがいの2つの掛け合いは奇麗なんですよ。…ソプラノの人で“sie”を“ジー”という人がいるけど、“ズィー”ね。

◇ 316 【prüft im Tod; Wol-】 いまおそらく30人ぐらいいらっしゃいますが、次の“Wol-”が気になって“Tod;”の“…d;”の音を言った人、いないんじゃないかな。それも“To…”が長いから“…d;”を言うヒマがなくなってるのじゃないかな。ましてブレスをして“Wol-”に行かなくてはいけないから。もっと速く発音してください。

♦ 317 【-lust ward dem〜】 “dem”のシの音は届くんだけど、“ge”(318)のシの音が届かない人がたくさんいる。

○ 319 【und der Che-rub】 さっきの“Ja,”(284)といっしょなんですが、“Che-”は軽くならないで、テノールみたいな音色にならないように重く“ケー!”。

● 321 【und der〜】 なんか田植えみたいに“und”“der”“Che-”“rub”（笑）。短めににするだけじゃなくてね、みなさんのは1つ1つに活力がないのね。もっと大魔神が行進しているように。

○ 330 【Gott.】 “…オーォット”って言ってくださいね。

○ 411 【Lau-fet,】 “L…”の前は“ゥ”と少し入ってもいいから、揃って“L…”。

● 416 【wie ein〜】 前半に出てくる“wie ein Held”(416-417・419-420)と後半に出てくる“wie ein Held”(427-428)の違いは、前半はあいだに間がありますよね。後半はつながってますよね。その差をはっきり出して。とくに後のほう。最初の切れているほうは切れているんだけど、後半が十分ではありませんから。

★ 417 【お話し】この“Held”“勇者”という言葉を使ってヘルデンテノールというのがいるんです。勇者のようなテノール。8月にバイロイト音楽祭とかありますよね。テノールで英雄の役を歌う人をヘルデンテノールその“Held”

○ 431 【--gen!】 “--gen!”。“ゲン”じゃなくて、“ゲェン”縦に長くね。

● 543 【Freu-de,〜】 …ただ、ありったけの声で歌わないでね。それは普段から練習のときにそういうことに着目しているかどうか。ここをありったけに歌っちゃうと、ここはfなんです。それで途中で“al--le Men-schen”(566〜・582〜)からffになってしまうんです。そのために最初からありったけで歌っちゃうと、そこがありったけじゃなくなっちゃうからね。…でも手を抜いちゃだめよ。そういう加減ができる? 本番はみんな興奮してここは歌っているところ。きっとそうなるんだろうな…

○ 543 【Freu-de,】 これを歌う出す直前にみなさんはピカソの飛び出た目の絵を思い出してください。（“Freu-”のディフォルメ）“re”の前に“F”を十分に。もの凄く前でしょ。失敗するぐらい前に。

★ 543 【お話し】ベートーベンはフリードリッヒ・シラーの詩を全部使っているわけではないんですよ。いろいろ前後して使っています。歌詞として使っていない場合もあります。しかし、その元の詩をドイツ人が朗読しているものがあるんですが、それをうちの学生に聞かせて参考にはならないと思ったことがあります。それは朗読する人が1人のエネルギーで読んでもその朗読は“フロイデ!!!”とか言ってないです。やっぱり合唱のここは新劇とか舞台の世界なんですよ。その歌い方をしてほしいです。

○ 549 【ly-si-】 後半でソリストたちが、“Freu--de,_Toch-ter aus E-ly-si um!”(777〜)と歌うんですけど、そこで“E-ly-si-um,”を“エリージウム”とは歌わないんです。“エリォージウム”。同じ演奏会で、ソリストと合唱団員の発音が違ったらチョイと恥ずかしいから、正しく発音してください。これは毎年指導させていただいて、毎回言ってることです。“ü-ber Ster--nen …”と同じなんで

す。ここと、あと一番最後に“Toch--ter aus E-ly-si-um!”(915〜917)が出てきます。そこも“-ly-”を注意。

○ 550 【um,】 みなさん、とっても語尾がはっきりしないんだ。“Hei-lig-tum!”の“…m!”も。

○ 552 【tre-ten】 “トレェーテン”なんていうソリストはいませんよ。“トリィーテン”って言いますよ。ドイツ人が聞いてくれた場合に、“See-le”を“ゼィーレ”と歌うのに、ここは“トレェーテン”って歌うの!? となってしまうでしょう。

○ 566 【teilt; al-】 “al---le”(566・582)と書いてある部分、ソプラノ・アルト・テノールは同じ音ですよね。ベースだけ上がっている。だからベースだけとっても印象的に“そこからffですよ”という歌い方を2度ともしてほしい。

○ 595 【Seid um-】 “Seid”は暗い声じゃなくて下の声をつかってね。

○ 598 【o-nen!】 “o-”“nen!”の音はちゃんと2つ、別にね。

◇ 619 【Brü-der!】 ソプラノ、ちょっと“ア”の母音だけで歌って。……あのねぇ、個人的な声にならないで。「私の声はものすごく個性的で隣近所の誰とも混ざらないのよ…」じゃなくて混ざろうとして。ここの数小節はお客さんにとっても「あぁいいハーモニーだ…」と思わせるところなんですよ。そこで個人的な歌を歌っちゃうと壊れてしまうから。特に“Brü-der!”の“…ü”に行くときに個人的な声になっている。そこで自我が出ないように。

♧ 619 【Brü-der!】 テノールさん、音程。

○ 619 【Brü-der!】 ここは“(f)”って書いてあります。ここは指揮者が本当のfを要求しません。ソフトな音色を要求するから、ドラマチックなfに解釈しないで。

○ 625 【Va--ter_】 ここの前は絶対ブレスをしないで! “ber Va-…”をつなげてブレスはどこかほかで。カンニングブレス。ここでは文法的に吸ってはいけません。

○ 631 【Ihr_ stürzt】 “Ihr_”のなかで“ < > ”をやってしまって、“stürzt”は揃って言ってほしい。“stürzt”は字数がいくつあるんだっけ? 4分音符1つで字数が6つもあるんですよ。もう何回かオーケストラとご経験のある方はこの“stürzt”は結構、間があるんですよ。ゆっくりですから安心して。……“ < > ”が大きすぎ! pの中の“ < > ”。fまで持っていかないで。

○ 638 【Welt?】 “ベールト”にならないようにね。“ヴェールト”。どこが違うかというと、“b”のときは拍の頭から発音、“w”は拍の前から発音。

○ 640 【ü-berm】 cresc.という文字がどこに付いているか? ここからcresc.をお願いします。

♠ 651 【ü--ber〜】 ベース、音を下にひっぱる（下げる）人がいる!
● 651 【ü--ber〜】 男声、もう少し強く出てくれないと。
★ 651 【お話し】発声にはアッペルトとジラーレという発声があるんですけど、声帯を開放するようにして出すのがアッペルト。開くという意味があります。ジラーレはねじるという意味があります。ここはアッペルト。この延長が裏声なんですよ。

♥ 654 【---nen.〜】 アルトさんねぇ、最初の出(650〜)は良かったんだ。だけどねぇ誰かがねぇ（笑）気持ち的に音を上に持っていかないと、「同じ音ですよ…同じ音ですよ…」でだんだん下がってきてしまっています。それから、音や息に自信が持てなくなったら、やめるの。「下がってもいいから参加したい」はダメ（笑）。でも僕はもっと嫌な予感がしていたけど、それよりはいいや（笑）。

● 655 【〜】 ここからフーガでアルトが“Seid_ um--…”と出ますね。ソプラノは“Freu-de, schö-ner…”。これはアルトの歌詞のほうが重要なんです。そのあとでこの2つの歌詞が他のパートでも出てきたときに“Freu-de, schö-ner…”は補足テーマだ、主人公は“Seid_ um--…”。このフレーズが出てきたとき自分たちが主役だと思って歌い出してほしいです。両方がんばるというのではなくて、“Seid_ um--…”がテーマだと思ってね。

● 745 【zelt! Br 〜】 みなさんの今のは“Brü-der!”(745-746・748)の“Br -”と“der!”の強さが同じなんです。極端では困るんですが“Br -”が10だとすれば、“der!”は8ぐらいに。ちょっとだけ2ポイントぐらい語尾を減衰させてください。

♡ 753 【zelt mu _】 アルトさん、他のパートは全部同じ音を歌うのに“mu ”の音の動きはなめらかに誇らしげに歌ってね。自分たちがメロディーだと思って。

○ 758 【ein_】 ここは“ < > ”がついてるでしょ。ちゃんと膨らんで窄めて。ここはオケの音符の数が増えて、ちょっとだけテンポがのろくなるの。それに対して“ein_”とやってほしいの。

● 795 【Dei-ne Zauber,〜】 僕、棒を降らない。糸井先生が前のほうからピアノを弾いて。…今ちゃんと出た人? そういう出方で、最初pって書いてあってcresc.って書いてあるでしょ。ハッと気がついて途中から参加している人がいるとcresc.に聞こえるんですよ。そんな自由参加はダメよ（笑）。最初からpで歌い出して全員がcresc.しないと。……みなさんのは“was die Mo-de”からfになってる（cresc.がない）。“bin-den_wie-der,_…”そのあたりから大きくしてなきゃ。間際までみなさんのは大きくしていない。歌い出してスグにcresc.と書いてあるんですから。……“観自在菩薩　行深般若波羅蜜多時…”般若心経にならないように“Dei-ne Zauber,”“ダイネ ツァォベル”。

● 797 【bin-den_〜】 “bin-den_wie-der, bin-den_wie-der,”の“b”、“w”を区別して。

◇ 812 【sanf-ter】 “-te”の音が低い。ちゃんと届いて。
○ 812 【sanf-ter】 “sanf-ter”は“sanf-”より“ter”が小さいの。“ザーン太ぇール”じゃなくて（笑）。

○ 813 【Flü-gel weilt._】 “weilt._”と低いな。ここはテノールが和音を変えるわけだから。

○ 818 【Dei-ne Zau-ber,】 歌い出したら即! cresc.
○ 832 【Men-schen!】 ここからテンポが変わってゆっくり。大股で印象的にね。

○ 855 【Seid um-schlungen,】 “Seid”の発音。（拍の前から）

● 883 【Welt! der〜】 今のテンポだと語尾まで言えるはずだから“Welt!”(883・885・887・891)は“ベル…”じゃなくて“ヴェルト”。そこ“der”の前で息を吸いたい。“…lt!”も言わなければいけない。だから“Welt!”は短めにしてもっと速く言って。

○ 917 【ly-si-um!】 ここにも出てきたよ。さっきお願いした“…ly-”、“…リィー”にならないように。“…リォー”。そういう本番を迎えてください。ソリストたちをビックリさせないように。

★ 920 【お話し】もの凄い、こんな駆け足で第九をやったことのないスピードでした。いっぱいもっと嫌みなことも言いたかったんだけど、いつもの半分以下にしました（笑）。ありがとうございました。

♦長井先生、ありがとうございました。ドイツ語の発音、がんばります。
♦長井先生のめりはりのきいたレッスン、楽しかったです。声が迫力があり、聞き惚れました。(T.O)
♦風邪には青じそをいっしょに食べると3日で治るとTVで聞きました。のどには良いようです。
♦2回連続でお休みしてすみませんでした。今日も途中退席です。ごめんなさい。(Bella Musica)
♦今日はひととおり第九を歌って第九の大切なところポイントを練習でき、とても勉強になりました。長井先生いつも本当にいい声ですね! のべおか第九ももう少し日本語っぽい発音からドイツ語らしい発音にかわる20周年を迎えられるのでは、と思いました。
♦長井先生の魔性にバリトンにしびれました。もっとがんばろう。(You-You)
♦長井先生のご指導で、できていないところがたくさんあり、まだまだ練習が必要だと思いました。とても楽しく時間があっという間に過ぎました。
♦練習日にはなかなかこれなくて、FANTASIEの方が歌えなくて不安でした。でも今日の長い先生のわかりやすいご指導で、ずいぶん歌えるようになり、ホッとしています。
♦身体が固く、声も固い。柔軟さを身につけて練習に臨まなければいけないな。真夜中の月が美しかった。「月光」とはこういうものですね。(m♪)
♦長井先生のご指導、やはり楽しいです。ありがとうございました。
♦長井先生の指導で、また明確になりました。毎年の事ですが、とても楽しい時間です。ありがとうございました。
♦ファンタジーはフレーズの最後の音符の長さがはっきり解って、歌い易くなりました。
♦秋らしくなった一日、長井先生のご指導、大変充実した時間でした。注意点、勉強しておきます。ありがとうございました。(プンちゃん)
♦長井先生の指導、やっぱり素敵です。出ない声が出たような気になるからフシギ。気分は100点以上ですが、自分の能力を考えると60点かな?(メダカのおばちゃん)
♦いつもより声が出たような気がしました。
♦長井先生の指導をうけると何かちがう曲のように聞こえたファンタジーでした。教えていただいたことを忘れず、練習しなくては…。
♦久しぶりに練習に参加しました。声がかれていて、思う様に歌えませんでしたが、きっと自主練習をしてがんばりたいと思います。(なる)
♥先生の美声におどろきました。
♥長井先生の美声で歌われると、コンサートを聞きに来ているようでした。指導もとても楽しかったです。
♥心配していていた天気も今日はすばらしい。秋日和、真っ青な空と心地よい風邪、皆様と共に歌えることに幸せを感じています。そして長井先生のご指導に『う〜ん! う〜ん?』忘れていた。スミマセン。 (Dynamite Lady)
♥今日“題名のない音楽会”でドイツの3大Bのベスト30曲の紹介があったのですが、さすがヴェートーベン、第九は1位に輝きました。でもMの部分、コーラスなしのオーケストラバージョンだったので、一寸ザンネーン。やはり第九は合唱が入って始めてその真意が伝わるのだと思った次第。まさにピカソの恋人の目の感じですよね。(スピカ)
♥長井先生のご指導、本当にありがとうございました。(チーママ)
♥とても楽しく時間があっという間にすぎました。ご指導、ありがとうございました長井先生。
♥よく休みますが、家で車の中でCDを聞いています。頑張ります。(美智子)
♥長井先生の指導で、ずいぶん上達したような気分です。力が入った分、疲れました。(史)
♥急に涼しくなって参りました。いろいろ楽しい事もふえて又又忙しくなりました。でもまさに第九、到来ですね。長井先生のご指導、楽しかったです。(ねずみバーバ)
♥充実した「ファンタジー」「第九」の練習でした。ありがとうございました。
♥しばらくぶりで歌いました。今回はいろいろな事情で欠席が多く、あと残り頑張りたいです。(日向キルトママ)
♥楽しく気持ちよく歌う事ができて、とても満足しました。今日の指導をしっかり身につけます。(トトロ205)
♥長井先生の一年ぶりのご指導、ありがたく受けました。本番までもう少し。真剣に頑張らねばと思いました。
♥10月に入って初めて来ました。昼間の練習は学校があり、なかなかこれません。でも、今日の長井先生の練習はこれて良かったです。P.S.ステージで歌っているとき暑くてたおれそうでした。
♥長井先生、ありがとうございました。幻想曲なんとかテンポにのれました。頑張ります。
♥長井先生の指導に操られ、芸術の秋を堪能出来た気がします。先生の大ファンになりました♡ありがとうございました。(おダンゴママ)
♥長井先生いつ聞いてもいい声。

♥楽しい合唱指導を有り難うございました。
♥何回歌ってもドイツ語は難しい!! 舌が回らないのか。くちびるが動かないのか…!? でも毎年、長井先生のご指導を受けられて本当に幸せです。勉強します。(ドウリンク)
♥長井先生、ありがとうございました。
♥久々の長井先生のレッスン、夢中でうたいました。ドイツ語がちょっぴり上手になった気持ちです。(Hamu-Star)
♥近頃、疲れ気味で帰りはグッタリするけど、今日はさすがにシャキッとしました。(光ちゃん)
♥先生のご指導、大変楽しくためになりました。(ウェンディ)
♥合唱幻想曲はなかなか難しいです。今日のご指導で少しはわかったかなぁ? 練習あるのみ。
♥やむを得ず2回続けて休みました。第九も幻想曲も半分も覚えていないのにまたまたみんなに遅れてしまいました。寝ていてもうなされる毎日でした。
♥長井先生の素晴らしいご指導に感動しつつ、要点を押さえることが出来ました。幻想曲も何とか歌えるようになりました。
♥会場が変わるとまた違う気持ちになりますね。(とら)
♣お疲れさまでした。今日、2つの曲を指導して頂き、中身の濃い練習時間でした。第九はもちろん、ファンタジーもいっそう楽しみな曲となりました。
♣長井先生、ありがとうございました。幻想曲の速い所がついていけません。意味がわかるとついていけるかな?(ヒロー)
♣ファンタジー、要点が少し解った。ありがとうございました。
♣今日はがんばりました。次もがんばります。(ねこふんじゃった)
♣なかなか練習に参加できず、すみません。ただ練習用CDと第九だよりをダウンロードしてポイントだけはチェックしています。ご苦労様です。
♣長井先生の指導は非常に分かり易く、多いに勉強になりました。(Y)
♠長井先生のすばらしいご指導、ありがとうございました。(HK)
♠長井先生の指導でファンタージの歌い方が何かつかめた感じ。(グリーンヒル)
♠さすが長井先生の大きな動きが分かり易かった。説得力があった!(がみchan)
♠今日は大変勉強になった。メモはしたけど次は忘れているかも…(テッチャン)
♠先生、ご指導、有り難うございました。ベースの声、男としての声で発声するテナーっぽくいやいやうすっぺらいベースにならないようにと。またやりなおしてみます。やっぱりためになるなー。(マッチャン)

●編集後記

次回は**11**月**6**日 **(日) 19:00〜21:30**

前回練習日の翌日・翌々日と私は出張で宮崎市でした。編集時間はギリギリになったのですが、出張のおかげで長井先生ご指導のダビングテープを宮崎市在住の柳田先生に渡すことができています。

まず「合唱幻想曲」、歌う部分の小節数をカウントしてみると130小節です。なんとそのうちの1/3の40か所の指摘をうけてます。その後の「第九」、いつも指摘を受ける部分にたくさん問題が残っています。練習修了後の先生のご講評では「第九」のほうが今年はいつもより悲惨らしいです。【munenori@horita.jp】